

# バラの原種の分類と分布

野村 和子

## The Taxonomy and Distribution of the Ancestor *Rosa*

NOMURA Kazuko

バラの原種すなわち野生種は北半球にのみ分布しており、その数はおよそ150種あるといわれている。

それらの基本的な形態は花弁数5枚、奇数羽状複葉、落葉低木であるが、150種ほどの原種のバラはさらに微妙な形態の差で細かく分類されている。今回はその植物学的な分類について触れてみたい。

花弁数5枚の野生バラに目をとめ、栽培し、利用し、さらには交配して改良していった先人たちのバラへのあくなき欲求、知恵、夢があったればこそ、現在の華やかな多くのバラたちを今我々がいとおしむことができるのである。

たった5枚の花弁数のバラがどのようにして現在のバラに至ったかは第4号で述べているので、そちらを参考にしていただけると幸いである。

バラと呼ばれる植物はすべてバラ属=*Rosa* に分類されている。

たとえば、ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	(日本原産)
ハマナシ(ハマナス)	<i>Rosa rugosa</i>	(日本原産)
ドッグローズ	<i>Rosa canina</i>	(ヨーロッパ原産)
ロサ・キネンシス	<i>Rosa chinensis</i>	(中国原産)
ロサ・ヴァージニアナ	<i>Rosa virginiana</i>	(北アメリカ原産)

という様にバラの学名はすべて属名の*Rosa*で始まる。

ランという植物にはファレノプシス属、デンドロビウム属、シンビジウム属、カトレア属その他膨大な属があるが、それを考えるとバラはバラ属だけ

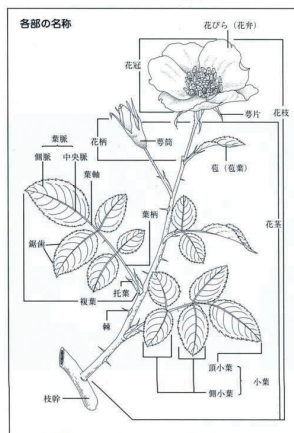
なので頭の整理はしやすいと言える。

バラ属に含まれる種の数はおよそ150種で自生の分布は北半球のみである。

大雑把にいうと、日本に20種、ヨーロッパに20種、北アメリカに20種、残りはほとんどアジア、中近東に存在する。とくに中国には多い。

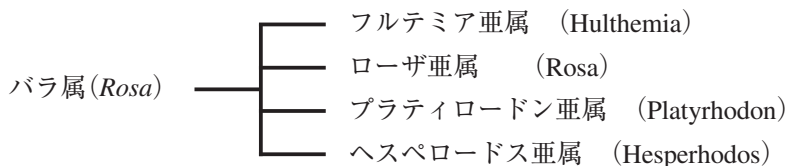
基本的にバラという植物は形態上花弁数5枚、萼片5枚、葉は奇数羽状複葉で托葉があり、枝はややつる状に伸びて刺で他物にひっかかりながら這い上る、ということである。

生物の分類は属の次に種(種小名)を表記して、二名法といわれるいわゆる学名で呼ばれるが、バラではバラ属をさらに細かく分類して4つの亜属と10の節に分け、その下に種小名をもってきている。学名として表記するときは、亜属や節は書かずに属名と種小名とで表す。



#### 四つの亜属

(以下属名のRosaはR.と省略する)



#### ・フルテミア亜属

この亜属にはロサ・ペルシカ (*R. persica*) 1種のみが入る。葉が複葉でなく単葉で托葉がないところから、バラ属ではなくフルテミア属であるとする説もある。が、バラは属間交雑が成立しにくく、すでにこのペルシカとロサ・クリノフィラの交雑種としてロサ・ハルディ (*R. × hardy*)があることなどからバラ属として考えたい。

単葉で托葉がないこと以外にも、花の中心に赤褐色のブロッチがはいることも特徴である。近年この種の交配が進み、中国西部から南西アジア、西アジアに自生する原産地にちなんで、バビロンローズの名で新品種が発表されている。いずれもブロッチがあるのを特徴としている。

・ローザ亜属 この亜属は大家族で、さらに10の節にわけするため後述

#### ・プラティロードン亜属

萼筒は杯状ではっきりした刺が多く、瘦果は萼筒内の基底につく。小葉数は7~15枚と多い。日本のサンショウバラは富士・箱根地方の原産でバラ属の中で唯一樹木状になり、葉がサンショウに似ていることから命名された。

ロサ・ヒルトウーラ(サンショウバラ) *R.hirtula* 日本原産

ロサ・ロックスブルギー *R.roxburghii* 中国原産  
など。

#### ・ヘスペロードス亜属

萼筒は杯状で刺が多い。瘦果は萼筒内の基底につく。小葉数は3~7枚。

ロサ・ステラータ *R.stellata* 北アメリカ原産

ロサ・ミヌティフォリア *R.minutifolia* 北アメリカ原産

#### ・ローザ亜属

この亜属をさらに10の節に分け、上記以外のすべてのバラの種が入る。

### 1 ピンピネリフォリア節 *Pimpinellifoliae*

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部に集まり、わずかに抽出して頭状になる。花は単生することが多く、包葉がないことが多い。小葉は5~9枚、またはそれ以上。4月末から開花する早咲き種が多い。ロサ・フォエティダは現代バラに黄色を導入した種である。

ロサ・スピノシッシマ *R.spinossissima* ヨーロッパ原産

ロサ・フォエティダ *R.foetida* イラン、イラク、アフガニスタン原産

ロサ・プリムラ *R.primula* 中国原産

ロサ・ヒューゴニス *R.hugonis* 中国原産

など

## 2 ガリカ節 Gallicanae

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部に集まり、わずかに抽出して頭状になる。花は単生することが多く、包葉がないことが多い。小葉は5枚。長さ2~6cm。以下の3種が古代から栽培、利用されていたと考えられている。

ロサ・ガリカ *R. gallica* 中近東-西アジア

ロサ・ダマスケーナ (*R. gallica* × *R. phoenicia*)

ロサ・アルバ (*R. damascena* × *R. canina*)

など。

## 3 カニーナ節 Caninae

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部に集まり、わずかに抽出して頭状になる。花は散房状でときに単生もある。包葉があり、小葉は5~11枚。茎には強い曲がった刺がある。外側の萼片は羽状に裂ける。

ロサ・カニーナ *R. canina* ヨーロッパ原産

ロサ・エグランテリア *R. eglanteria* ヨーロッパ原産

ロサ・グラウカ *R. glauca* ヨーロッパ原産

など。

## 4 カロリナ節 Carolinae

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部に集まり、わずかに抽出して頭状になる。花は散房状でときに単生もある。茎は針のような細い刺があるものが多い。萼片は花後開出して脱落する。瘦果は萼筒内の基底にのみ着生する。

ロサ・カロリーナ *R. carolina* 北アメリカ原産

ロサ・フォリオローサ *R. foliolosa* 北アメリカ原産

ロサ・ニティダ *R. nitida* 北アメリカ原産

ロサ・ヴァージニアーナ *R. virginiana* 北アメリカ原産

など。

## 5 ローザ節(キンナモメア節)

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部に集まり、わずかに抽出して頭状になる。花は散房状でときには単生もある。茎は針のような細かい刺があるものが多い。萼片は花後直立し、宿存する。瘦果は萼筒内の基底から側壁にかけてつく。

ロサ・アキクラリス(オオタカネバラ) *R. acicularis* 日本中部、北部原産、ヨーロッパおよび北アメリカの北部、シベリアに分布

ロサ・ニッポネンシス(タカネバラ) *R. nipponensis* 日本原産

ロサ・ルゴサ(ハマナシ) *R. rugosa* 日本、東アジア原産

ロサ・ダヴリカ・アルペストリス(カラフトイバラ)

*R. davurica alpestris* 日本原産

ロサ・キンナモメア *R. cinnamomea* ヨーロッパ原産

ロサ・ペンデュリーナ *R. pendulina* ヨーロッパ原産  
など。



ハマナシの葉と托葉

## 6 シンスティラ節 Synstylae

托葉は葉柄に沿着する。花柱は萼筒の喉部から抽出して、柱状に癒着し、雄しべとほぼ同じ高さになる。

ロサ・マルチフローラ(ノイバラ) *R. multiflora* 日本原産

ロサ・ルキアエ(テリハノイバラ) *R. luciae* 日本原産

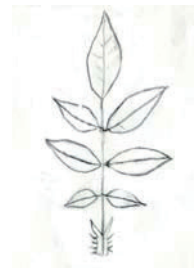
ロサ・オノエイ(ヤブイバラ) *R. onoei* 日本原産

ロサ・サンブキナ(ヤマイバラ) *R. sanbucina* 日本原産

ロサ・センペルウィレンス *R. sempervirens* ヨーロッパ原産

ロサ・フィリペス *R. filipes* 中国原産

など。



ノイバラの葉と托葉

## 7 インディカ節 Indicae

托葉は萼筒に沿着する。花柱は萼筒の喉部から抽出し、互いに分離して、雄しべの約半分の長さになる。

ロサ・キネンシス・スポンターネア *R. chinensis spontanea* 中国原産

ロサ・ギガンテア *R. gigantea* 中国原産  
など。



キネンシスの葉と托葉

## 8 バンクシア節 Banksianae

托葉は狭披針形で、基部以外は葉柄と遊離し早落する。新しい小枝は無毛、小葉3-5枚。花柄と萼筒は無毛。花は小さく散形につき、黄色または白色。いわゆるモッコウバラとわれる種類がある。

ロサ・バンクシアエ・ノルマリス *R. banksiae normalis*  
中国原産

ロサ・バンクシアエ・ルテスケンス *R. banksiae lutescens*  
中国原産

ロサ・キモーサ *R. cymosa* 中国原産  
など



バンクシアエの葉と托葉

## 9 ラエウィガータ節 Laevigatae

托葉は基部以外は葉柄と遊離し早落する。新しい小枝は無毛。小葉は3-5枚。花柄と萼筒に刺毛が密生する。花は大きく単生し、白色。

ロサ・ラエウィガータ (ナニワイバラ) *R. laevigata* 中国原産  
など。



ナニワイバラの葉と托葉

## 10 ブラクテアタ節 Bracteatae

托葉は羽状に細裂し、基部以外は葉柄と遊離し早落する。新しい枝茎には綿毛がある。小葉は7-9枚。花は1-3個。花の基部に包葉がある。

ロサ・ブラクテータ(カカヤンバラ) *R. bracteata* 沖縄、中国原産

ロサ・クリノフィラ *R. clinophylla* インド原産

バラの原種の基本形は花弁数5枚であるが、これがなぜ花弁数の多いバラに発展したのかというと、それは雄しべの数が影響している。

雄しべは花弁に変化しやすい性質がある。バラは雄しべの数が多いため、長い利用と改良の過程の中で花弁数が多くなっていったものである。

オールドローズの中には60~80枚とあまりに多い花弁数になったために、雄しべも雌しべも退化して、どんなに良い形質をもっている交配育種による親株にはなり得ないものも数多くある。現代バラにおいては八重咲きの花弁数は30~40枚くらいのもが多い。